



内山美穂子
議員
(拓政会)

問 幕別町は「ナウマンゾウのまち」として全国に発信している。平成28年度のナウマン公園大型遊具設置を機に、おおもとなるナウマン象記念館の自身について見直す必要があると考え、以下伺う。

- (1) 地域の核としての位置付けと、今後の方向性について。
- (2) 専門的知識を持つ人材の配置は。
- (3) 町内の他の資料館との連携は。
- (4) 博物館協会などと連携し、外部専門家の提言を取り入れるなどの積極的な活用は。
- (5) 発掘化石の中に絶滅した巨大ジカの歯があったとする昨年の発表を受け、再調査する考えは。

教育長 (1) ナウマン象記念館は観光拠点エリアの中核的施設として整備した最初の施設で、忠類地域の象徴的な施設である。子どもたちが学ぶ場所として最適な空間であり、子ども同士の交流はもちろん、一緒に来館される大人もさまざまな情報交換を行える場となる

問 「ナウマン象記念館」を町の核としてどう生かすのか
答 地域の学びの場となるよう町長部局とも連携した事業展開を検討する

ので、ナウマン象記念館が、地域の学びの場となるよう、町長部局とも連携しながら今後の事業展開を検討していきたい。

(2) 調査研究に要する費用等も相当な負担となることから、これまで同様、北海道博物館や関係機関などの連携や必要に応じて学芸員の招致による事業等を行っていきたい。



ナウマン象骨格レプリカの展示

(3) 「ふるさと館ミニ移動展」をナウマン象記念館で開催することな

どについて検討していきたい。

また、学芸員の要素を持つ「地域おこし協力隊」の活用による、町内の資料館の連携についても検討を行っていきたい。

(4) 和歌山大学観光学部との連携や、北海道博物館の学芸員との連携という形で専門家の意見を活用していきたい。

(5) 発掘地の地層の再調査を北海道博物館において遅くとも数年後には実施すべく検討しているとのことであり、再調査の際は、協力していきたい。

再質問 記念館のあり方は時代の要請と共に変遷するもの。平成22年の忠類地域活性化診断委託業務報告書に記念館への指摘や具体策が記載されている。この分析結果や提言は反映されているのか。

答 財政的な裏づけもない状況であるので、どの程度取り入れられるか、今後検討したい。

問 町民の声を聞く町の姿勢について
答 児童生徒との意見交換や、「札内みんなの家」で住民が参加できる方策を検討

問 「ともに考えともに創る活力あるまちづくり」の実現には、町民に関心を持ってもらうことが第一。広報広聴活動を循環型にするなど身近に感じる新たな工夫が必要と考え、以下伺う。

(1) 町民が日常生活で感じたことを気軽に提案できる制度の新設は。

(2) 新庁舎の総合案内窓口へ町民を交代で活用する考えは。

町長 (1) 子どもたちが気軽にまちづくりに対する夢や要望を提案できる取組は大変重要であり、学校への意見箱の設置や、直接学校を訪問し、児童生徒と意見交換する場を設けるなどの取組を検討していく。

(2) 新庁舎の総合案内窓口には、町民活用の考えはないが、平成29年度にオープン予定の札内福祉センターについては、基本計画にも「協働と参加で創る札内みんなの家」をテーマに、町民が立ち寄りやすい、より身近な施設として活用されることを目指している。